

商標の未来を拓く —商標実務を次のステージへ—

商標委員会 委員長

内田 耕平 氏

(所属：株式会社ブリヂストン)



interview

自己紹介

知財のキャリアは事務所勤務から始まり、その後の出向をきっかけに企業知財の道へ進みました。現在は商標に加え、ドメインネームやDNSなどのデジタル領域も担当しています。商標委員会には2023年より参加し、2026年度で3年目になります。
趣味はドライブや音楽、ジョギング、ゲーム、そして美味しいものとお酒を楽しむこと。仕事とのバランスを取りつつ（取れているかはさておき）、日々リフレッシュしています。

Q 研究テーマとそれを選んだ背景・理由は？

本年度の研究テーマは、以下の5つです。

- 第一小委員会：商標業務における適正なKPI・評価手法の確立
- 第二小委員会：商標部門のネーミングへの関与の在り方・手法
- 第三小委員会：BtoBの商標・ブランド戦略
- 第四小委員会：海外グループ会社との連携と出願国判断
- 第五小委員会：自社登録商標の対外的使用状況の監視

これらのテーマは、いずれも前年度の委員会の中で広く提案を募り、その中から議論を重ねて厳選したものです。いずれも、企業における商標実務に直結する課題であり、「事業や経営にどう貢献できるか」という視点が強く意識されたテーマが揃っていると感じています。

実際には、このほかにも非常に興味深いテーマが数多く提案されていましたが、委員会の編成上すべてを採用することが難しく、やむを得ず見送ったものも少なくありません。そのような中でも本年度のテーマは、多くの委員の関心を集め、優先度が高いと判断されたものになります。

なお、ネーミングやブランドに関するテーマは例年関心が高く、今年度も第二・第三小委員会については、より充実した議論ができるよう、それぞれ複数グループに分かれて検討を進めています。実務的な課題に加え、中長期的なブランド戦略の在り方にも踏み込んだ議論が期待されます。

また、本年度は全ての小委員会が論説を執筆し、その成果を「知財管理」誌に掲載する予定です。単なる情報共有にとどまらず、各委員が自らの考えを整理し、体系的・論理的に深めることを意識した研究活動を進めています。委員それぞれが試行錯誤しながらも、少しでも実務に還元できる示唆を提供できるよう取り組んでいるところです。

Q 委員会の特長／魅力は？

前任の徳若委員長（株式会社KADOKAWA）もおっしゃっていましたが、商標委員会の特徴を一言で表すと、「多様性」でしょう。「実行力」もあるのではないのでしょうか。

まず、多様性という点では、参加企業の業種が非常に幅広いことが挙げられます。製造業にとどまらず、サービス産業を含めたさまざまな企業が参画しており、「商標」というテーマが、業種を問わず事業活動の根幹に関わるものであることを体感できる場になっています。

さらに、委員一人ひとりのバックグラウンドも実に多様です。商標実務の経験者、弁理士資格を有する方、他部門から知財に変わった方、若手からマネジメント層まで、多様な視点が交差します。こうした環境の中で議論を重ねることにより、自身の専門性を深めるだけでなく、新たな視点や気づきを得られる点は、この委員会ならではの魅力だと感じています。

こうした基盤があるのも、これまで歴代の委員長をはじめとする関係者の方々が、魅力ある委員会を築いてこられたおかげです。現在では委員数も70名に迫る規模となり、多様な人材が集まるコミュニティとして、年々その広がりや厚みを増しています。

また、当委員会では対外発信にも力を入れています。制度改革やパブリックコメントへの対応に加え、国際的な議論の場にも積極的に関与しています。その代表例が、「マドリッド制度の法的発展に関する作業部会（マドプロ作業部会）」への参加です。2015年以降、継続して委員を派遣し、関係機関と連携しながら、実務に根差した「ユーザー視点」での意見発信を行ってきました。制度の現場において実務の声を届け続けることは、本委員会の重要な役割の一つだと考えています。

日々の研究活動に目を向けても、委員の皆さんの熱量の高さがこの委員会の特徴です。毎月の会合には現地で参加される方が多く、遠方から足を運んでくださる方も少なくありません。オンライン参加という選択肢もある中で、あえて現地に集まることで生まれる密度の高い議論や、偶発的な気づき・交流には、やはり大きな価値があると感じています。

このように、多様なメンバーが集い、それぞれの知見を持ち寄りながら、内向きに留まらず対外的にも発信していく——その実践の場が商標委員会です。今後もこの強みを大切にしながら、実務に資する価値ある成果を発信し続けていきたいと考えています。

Q 委員会としてのこだわりは？

商標委員会には多様なバックグラウンドを持つ委員が集まっています。この環境は、受け身で参加するには少しもったいない場だと感じています。ぜひ、それぞれの関心や課題意識を持ち寄りながら、委員会活動を前向きに、そして楽しんでいただければと思います。

私自身も、皆さまにとって実りある場となるよう取り組んでいます。本年度は「大人の学び」と題し、商標に限らない専門家による講演やアルムナイ企画も予定しています。視野を広げ、新たなネットワークを築くことで、専門性を高める機会につながればと考えています。

「学び」と「つながり」の場を通して、ともに商標を楽しめれば幸いです。皆さまのご参加をお待ちしています！